

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 てらこやキッズ		
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 1日		～ 令和7年 11月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0名	(回答者数) 0名
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 1日		～ 令和7年 11月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 12月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育を実施するにあたり、職員を多く配置して安心・安全に配慮した体制をとっている。	児童の特性や発達段階を鑑み、状況に応じて職員の配置数を検討し配置している。	今後も、安心・安全な環境を整えていけるよう、ソフト面の強化だけではなく、ハード面の強化も図っていきます。
2	活動プログラムが固定化されない工夫を行っている。	準備や計画に時間をかけ、あらかじめ丁寧にタイムスケジュール等を決めた上で、当日の子どもの様子等を踏まえて、柔軟に活動のねらいや活動内容を変更することも行っている。	通所している児童の年齢や障害特性に合わせて、どの子も楽しめるように、今まで以上に念入りな活動の準備・計画を行いたい。活動内容に関して専門職の方に助言をいただいたり、お出かけ先の下見をきちんと行ったり、できるだけ努力をしていきたい。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	経験と知識の未熟さ。	学習した内容を全職員が共有できる環境が整っていない為、5領域を含めた療育に対する専門性等、職員の知識が希薄になってしまっている。	利用児一人ひとりの課題やニーズの把握を行い、計画的に5領域を意識した課題を検討していきます。また、職員のスキルアップを図るために、内部研修の実施や外部研修に積極的に参加して参ります。
2	障がいのない子どもたちとの交流の機会が少ない。	公園へお出かけしたり、近隣にある児童館へ遊びに行ったりすることで交流の機会が全く無かった訳ではないが、保護者の方へ周知がされておらず、評価を得られなかったと分析する。また回数自体も少なく、積極性に欠けていた。	公園へのお出かけ等、障がいのない子と交流できる活動内容を事前に配布している活動スケジュールに明記することや、その回数自体を増やしていく方針を取る。
3			